

1 テーマ：プラトン『クリトン』

2 参加者数：1年6人、2年4人、3年2人、教師2人

3 プラトンについて概説(今回は、スペシャルゲストとして、ウィリアム・オークリー先生にお越し頂き、20分ほどプラトンについて英語でレクチャーを頂いた。) (以下は大意)

・プラトンは、古代ギリシアの哲学者で、西洋でも最も重要な哲学者。アリストテレスはその弟子である。プラトンはソクラテスのもとで学んだ。世界はなぜ存在するのかなどの形而上学(メタフィジックス)や、いかに行為すべきかの倫理学(エシックス)に挑戦した。また、アカデミー(学園)を作った。プラトンはソクラテスについて『対話編』を書き記した。ソクラテスは他の人に質問を繰り返したが、他の賢いとされる人は結局物事についてよく知らなかった。プラトンは、例えば物質的世界において多様なイスがあっても、それがイスだと分かるのはなぜか? について、イスのイデアがあると考えた。我々は洞窟内でイデアの影を見ているが、我々の背後には火がある。哲学者は後ろを振り返り、イデアの影でなくリアリティーの世界を見ることが出来る、とプラトンは考えた。プラトンの描くソクラテスは、他の人の描くソクラテスと違い、死の準備ができており、それゆえ友人たちはソクラテスを理解しない。

4 本文を朗読(以下の活動は日本語)

・ソクラテスが死刑判決で毒杯をあおぐ前夜、友人のクリトンがやってきて、脱獄を薦める。しかし、ソクラテスは、クリトンとの対話の後、やはり死刑判決に従うこととした。ソクラテスは当時70歳で、3人の子どもがいた。

5 意見交換(主な意見)

- ・ソクラテスは途中からはクリトンに反論し言いくるめようとしているように見える。
- ・クリトンは「大衆の評判も気にかけるべきだ」と言う。現代の大衆消費社会の風潮をどう考えるか? 私は、信頼する人の意見を聞きたい。
- ・「100万人を動員した」などは参考にはなるが、流されず自分の意見を持って生きたい。
- ・ソクラテスは「大衆の意見が正しいとは限らない」と言う。ニュースの街頭インタビューなどでも、自分の意見と違うことはある。
- ・状況による。民主主義下でも多数派の専制ということは起こりうる。
- ・多数が正しいとは限らない。選挙制度の仕組みの問題もある。
- ・ソクラテスは、「ただ生きる」のではなく「善く生きることが大事」とする。自分はまだ学生で人に養って貰っている身ではあるが、大人になったら、自分の意見を持ち社会に役立てる生き方をしたい。
- ・ただ生きているだけの人がいてもいい。正しさを求めすぎると欲望との葛藤が生じ苦しむことになる。老荘思想のように楽に生きる生き方があっていい。
- ・寝たきりの子は、善く生きよ、社会に貢献せよと能力・成果主義で要求されても、大したことが出来るわけではない。が、その笑顔で親が救われる世界というのはある。
- ・ソクラテスは「大衆に振り回されず哲学すべき」と言うが、今は大衆消費社会に囲まれて、哲学することが困難な社会になっているのでは?
- ・時代の流行はすぐ廃れる。流行から超然としていてよい。
- ・哲学できるところではするが、大衆のあり方が悪いとも限らないので、直感に従って生きてもいいのでは。
- ・ソクラテスは、「悪に対して不正でやり返してはいけない」とするが、「目には目を」の同害報復くらいはしてもよいのでは。圧政をする側も痛みを知るべきだ。
- ・悪に不正で対抗するのはやむを得ない場合であって、やり過ぎると大混乱に陥る。
- ・アテナイに民主主義や言論の自由があったからソクラテスはソクラテスになった。現代ではどうか。
- ・日本ではSNSで自由に発信できる。が、独裁国家で、自由な発信が出来ない国もある。

- ・民主主義や言論の自由がなかったら、ソクラテスは他の都市に移住していたかも。
- ・戦前の日本は言論の自由もなく教育も帝国主義・軍国主義の洗脳教育だった。戦後日本はそうではなく、思想の自由がある。国家にそう簡単には飲み込まれない。
- ・イギリスでも若者はSNSで発信する。政治的意見も。
- ・日本では若者はあまり政治的意見を持たず、楽しいSNSをやっている印象がある。
- ・人間の法（ノモス）と自然（ピュシス）と、どちらが大切か？ 戦前は国家のために死ぬべく教育され母親を捨てて特攻に行くことが美德とされた。私たちにとってナチュラルな、家族との生活を守るためには、国家権力が暴走しないように、国民が自覚を持って権力を監視すべきだ。
- ・他国では言論を封殺している国もある。
- ・移動の自由はどうか？
- ・福沢諭吉は幕藩体制が終わり日本国内どこにでも行ける、と喜んでいて。
- ・欧州はEU内で自由に行き来できた。アジアは、地域の個性があり、特殊な歴史を抱えているので、欧州と同じにはならないだろう。
- ・いや、欧州もまた、積年の対立と分断を乗り越えて一つになっていったのだ。
- ・コロナ禍で移動しにくかったが、ウクライナの人を受け入れた例もある。
- ・ソクラテスはただ「悪法も法だ」と従ったわけではなく、細かく吟味・検討したり対話したりしている。そのプロセスが大事だ。
- ・ソクラテスは冥府の神の前で潔白であろうとした。死後の世界についてはどうか。
- ・ソクラテスは哲学者なのに、死後の世界について語っているのはなぜか。
- ・古代人は我々よりももっと宗教的だったのだろう。哲学する部分が継承され拡大され現代の哲学になったのではないか。
- ・信徒は神の前で潔白であろうとする。それはわかる。が、ソクラテスが神信仰をしていたなら、それをいろんな場所で語っていたのではないか。
- ・なるほど。パウロの宣教とどう違うのだろうか。哲学か宗教かは、奥の深い問題だ。
- ・死後の世界や神について、科学的な方法では、存在も証明できないが存在しないことも証明できない。
- ・ソクラテスは70才。もっと若かったら、どうか。また、アテナイが悪政だったら？ アテナイがよい教育を受けていなかったら？
- ・若かったら別の挑戦があってもいいのではないか。
- ・いや、哲学した結果の選択であって、年齢は関係ないはず。
- ・DNAを残すことが「生命の目的」だとすると、生き残った者勝ちなので、善く生きることよりも長く生きることが大事だとなる。
- ・少子高齢化の日本についてはどうですか？
- ・子どもを産み育てられる社会の設計にすることが大事だろう。
- ・生物進化に「生命の目的」を見るのはどうかな？ 偶然適応したものが広がっているだけでは？
- ・我々は人権の立場に立つべき。
- ・外国人労働者を多く入れても、またトラブルが起きる可能性があったり、いずれ高齢化したりする。
- ・大衆の意見に合わせる方が、容易だが、多様な意見がもっとあるべき。

6 コメント：毎年世界（外国）、日本と交代で扱い、今年度は世界（外国）の番。第1回は古代ギリシア思想を扱い、第2回（12月）はヘブライズム（ユダヤ教かキリスト教）を扱いたい。今日はスペシャルゲストとしてオークリー先生にお越し頂き、プラトンについての丁寧な講義を頂いた。先生は古代ギリシア哲学にお詳しい。先生は我々のために丁寧に準備をして臨んで下さった。おかげで勉強になったし、刺激になった。しかも大変美しく知的なイギリス英語で、素晴らしかった。先生には心よりお礼申し上げる。（Y）